

# 成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

はままつ演劇クラブ

所在地	静岡県浜松市	設立年	2021年
運営主体	公益社団法人 教育演劇研究協会(劇団たんぽぽ)		
事業目標	本事業の実施を通して、児童生徒に文化芸術活動(演劇)体験の機会を提供するとともに、継続した演劇クラブとして様々な学校や学年の児童生徒が集える、地域に根付いた活動拠点を作る。また、参加する児童生徒の自主性、主体性を育み、その保護者や地域住民が、芸術文化に触れ、楽しむ機会を増やすことも目標。		
きっかけ	浜松市の小中学校には、演劇クラブや演劇部がない。しかし、演劇的手法を使った表現指導や学芸会指導を求める学校は多い。そのため、浜松市を拠点に活動している劇団たんぽぽが、子どもたちの学校や学年の垣根を超えて、地域活動として参加できる演劇クラブを創設した。		
団体・組織等の連携	<p>活動場所・成果発表場所</p>		
活動場所	浜松市浜北文化センター内施設(静岡県浜松市)		
活動概要	浜松市浜北文化センター内施設において、毎週土曜日(3時間)を基本とし活動。参加者は、小学校4年生～中学2年生まで。基本的に劇団たんぽぽ劇団員が指導にあたるが、今後は、外部指導者のコーディネートもしていく予定。台本を使い、演技だけでなく、照明、音響、美術、脚本等、幅広く演劇に触れながら、作品作りを目指す。年度末には、成果発表会を行い、一年間の活動の成果を地域住民や学校教育関係者に発表する。また、劇団たんぽぽの実際の公演現場を体験する機会も作る。		

## ○本事業による成果

従来の活動の成果のみではなく、本事業を実施したことにより得られた成果について記載すること。(数値やグラフで示すものがあれば望ましい)

- ・募集から2週間で定員に達し、その後も応募の問い合わせ相次ぎ、この事業が、地域に求められている活動であると強く感じた。教育委員会等のヒアリングから、「演劇に興味のある児童生徒が多いにもかかわらず、これまで学校内での創部に至らなかったのは、顧問や指導にあたる教員がないことも要因のひとつ」とのことで、教員の負担軽減という点では、事業実施の成果につながっていると考える。
- ・活動の様子を視察にきた行政や教育関係の方からは、異年齢の壁を超え協力しあって、子どもたちが伸び伸びと自分を表現している姿に感動したとの声をいただいた。
- ・参加児童生徒たちも、毎週の活動を楽しみしており、出席率は9割である。来年以降も続けたいという声も多く、高校生になったら演劇部に入りたいという子や、高校に演劇部がなければこのクラブを続けたいという子もおり、子どもたちに演劇に対する大きな興味を抱かせることができた。
- ・3月に実施した成果発表会では、まん延防止期間のため、来場者を家族に限定したが、ご家族から「こんな表情をする子だったんだ」との感想が聞かれたり、子どもたちからも、「この演劇クラブに入ったことで、学校でも色々なことにチャレンジしてみようという気持ちになった」との声があり、様々な変化が見られたことも成果である。



## ○児童・生徒への指導に関する工夫

指導を行う上で独自で工夫していることについて記載すること。

演劇クラブとして、子どもたちの自主性も尊重するよう工夫している。

演技が上手になることが目的ではなく、作品作りを通して、お互いの意見や役割を認め合い、協力しあって出来るものが演劇の舞台であることを感じてほしい。そのため、意見や感想を出し合い、話し合う場も十分設けることにしている。その上で、気持ちや言葉を伝えることの大切さや、どういう声、言葉、表現がその場に適当であるかの指導を行っている。

また、実際の公演現場に立ち合わせることで得られるものは大きいと考え、現場体験の際は、劇団員として自覚と責任を持たせて、劇団員指導の下、公演に関わらせている。

指導にあたる劇団員は、毎回実施計画と実施後のふりかえり、他の指導者とのミーティングを密に行い、次回の指導に生かす工夫をしている。



## ○運営上の工夫

運営上、工夫している点を記載する。

活動を土曜日に設定することで、法人の通常業務にかかる負担を軽減させている。演劇は、コロナの影響に左右されやすい分野であるため、状況や現状把握に学校関係者や教育関係者からの情報収集や意見交換を頻繁に行いながら運営している。

今後、自立した運営へと結びつけたいため、部費を徴収。保護者からの理解を得る努力を行っている。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

活動場所、指導者、活動経費、教育機関や地域等との連携等、様々な観点からの課題と展望を記載する。

今年度の活動場所とした浜松市浜北文化センターは、浜松市の中心街からは、少し外れるが、駐車場スペースも広く、駅からも近いので、交通アクセスは整っている。まずは、ここを活動の拠点に進めていきたいが、今は、一般の団体として、予約抽選による活動場所確保となっている。今後、この活動を定着させ、安定した活動場所として確保できるよう、どれだけの協力を得られるかが課題。

活動経費は、参加者からの2,000円/月を徴収しているが、今後、その金額が妥当であるかの検証が必要。行政や学校関係者、地域の文化振興財団などからは、活動について大変興味を持っていただいている。この先、連携協力体制を築いていくためには、運営団体が、活動のカリキュラムやシステムを構築していく必要があると考える。今年度は、23名の参加者を受け入れた。演劇というものに全く触れたことのない児童生徒たちであるが、活動に対して、大変積極的であり、また、学校も学年も超えて、お互いを認め助け合いながら演劇に取り組んでいる様子が見られる。ここから継続して参加していく児童生徒が増えることで、どのような演劇クラブになっていくかとても楽しみである。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

上記の課題をどのように解決し取り組んでいくのか、方針や計画を記載する。

まずは、自立した継続的な活動としていくための、基盤を作らなければいけない。そのためには、活動を多くの人に認知してもらい、協力者を募る必要がある。今年度は、コロナの影響で、思うような活動ができなかった。来年度は2年目ではあるが、ゼロからの気持ちで取り組んでいく。また、補助金等が活用できるよう行政にも働きかけていく。初年度に活動場所とした浜北文化センターは、立地や交通の便がよく、参加者が集まりやすい。今後も、ここを活動の拠点とするために、会館や地域の生涯学習課に協力依頼し連携を図りながら、会場費の減免を利用していきたい。

教育委員会へのヒアリングで、浜松市は、既存の部活動を中心に地域へ移行していくことで手一杯という現状であるようだ。しかし、いずれ、この演劇クラブが中学校の課外部活動として、認められるよう活動報告を密に行い、学校の現状把握や学校と参加者の情報共有も行えるような関係を構築していく。

また、ニーズが大きいことから、基盤が整ったら、市内での参加者数や活動地域なども広げたいため、指導者も劇団員に留まらず、コーディネートしていけるよう計画していく。

**※上記4点の記載の中に活動の画像を挿入してもよい。**

[※『地域移行\(展開\)を進める際のポイントチェックリスト』を参照すること。](#)

参加者 (予定人数)	対象学年 小学校5年生から中学2年生 予定人数(定員20名)
募集方法	チラシ配布、ポスター掲示、学校からの案内配布
指導者	劇団たんぽぽ劇団員 運営団体のコーディネートによる実演家
移動手段	保護者による送迎、もしくは公共交通機関
活動費用	2,000円/月
スケジュール	4月～5月募集 6月～活動開始 毎週土曜日 (2～3時間/1回) 3月成果発表会
保険加入等	参加者、指導者は、スポーツ保険に加入

※文化庁ホームページ:地域文化倶楽部(仮称)の創設に向けた検討会議 [事例集](#)を参照

掲載URL

([https://www.bunka.go.jp/shinsei\\_boshu/kobo/pdf/92801101\\_09.pdf](https://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/pdf/92801101_09.pdf))

※それぞれの項目に掲載しているのはあくまで例示ですので、掲載しているもの以外の観点等で自由に記載していただいて結構です。ただし、どこかの項目に学校の働き改革(教員の負担軽減)を踏まえた観点の記述を必ず入れていただきますようお願いいたします。(本事業の最大の目的であるため)

# 【活動の様子（写真添付）】

